

新たな生活が始まった。同時に「園長通信～こころ～」もスタートした。これは、令和元年11月11日から令和6年3月28日まで出していた「校長室だより～燦燦～」の続編である。この4月から、幼稚園の園長となった。小学校、中学校、高等学校に続いて4つめの校種である。未知の世界に飛び込んだわけだが、意外とドキドキ感はなかった。幼稚園の先生方がもつ雰囲気のおかげだろうか。それよりも、わからないことが解明されていくことが楽しい。パソコンのシステム、幼稚園ブログの記事の上げ方、玄関の開錠、施錠の仕方など、わかる、できるようになることが、おもしろい。これは、今までにはなかったことである。物事は、見方が変わると、感じ方も変わるということだろうか。

予想はしていたが、幼稚園の先生方は、テキパキと手際がよい。小さな子どもたちを相手にしているからそうなるのだろうか。あるいは、元々そういう方が、幼稚園の先生になるのだろうか。今のところ、まだわからない。

どの職場もそうだが、4月当初は慌ただしい。特に、転勤があった方は、毎日気が張っていることだろう。今年度は、幸か不幸か、4月1日が月曜日だった。連続5日間の勤務になる。準備期間がとれるのはいいが、週末まで長く感じるのではなかろうか。

私の新しい職場も、先生方が、それぞれのポジションで活躍している。ふとしたときに、主任の先生と話す機会があった。いろいろな話をした。私が「幼稚園教育要領解説」を手にして、これを全部読んだことを話した。すると、主任の先生もすぐに同じものを取り出した。インデックスが貼ってあり、使い込んであった。さすがである。私が手にしているものは、家人のもので、数枚の付箋も家人が貼ったものだった。恥ずかしかった。

私は、370ページもある書物を読んで、幼稚園の先生には感性が大事だと感じたことを話した。センスが必要であること、そして、一番は人間性だと思うことを話した。専門性も必要だが、やはり人間性である。

この主任の先生からは、この数日間で、前述の「校長室だより～燦燦～」の内容が次から次へと出てきた。そこで、聞いてみた。「いつから読んでくれていたの?」「3月初めからですかね」どうやら、私が前任校で出してきたNo.334からNo.1000までをすべて読んでくれたらしい。只者ではない。特に心に響いたもの、印象に残っているものを聞いてみた。すると、すぐにいくつか出てきた。ありがたい読者の一人である。

一つ、困ったことがある。今までよりも、30分遅く目覚ましをセットしている。にもかかわらず、今までと同じ時刻に目が覚めてしまう。習慣とはおそろしい。決して歳のせいではない。あまり早く出勤するわけにもいかない。出勤前に時間ができる。新聞に目を通す。まだ、時間がある。そこで、この「園長通信～こころ～」の原稿をスマホに打つことにした。下書きである。実は、朝が一番、頭が冴えている。

どうにかこうにか、新しい生活がスタートした。いろいろなことがおもしろい。そう感じることもできる職場である。先生方に感謝である。